

# 持続可能な地域の作り方

～地方創生実現のためのSDGsアプローチ～ vol. 1

## 分断シナリオから協働シナリオへ

issue+design代表 寛 裕介

### 日本の地域作りはなぜうまくいかないか

地域活性化は日本の長年の政策課題であるが、成果があがっているとは言いがたい。私自身、色々な地域での活動を通じて、「なぜ地域作りはうまくいかないのか？」と自問を繰り返してきた。その結論が「工学的アプローチの限界」である。

工学的アプローチとは、要素分解と個別対処のアプローチである。例えばテレビが映らないとする。この問題に対処する場合、原因を要素に分解して考える。それはリモコンの故障かもしれない。電源コードの接続不良かもしれない。原因を特定し、その部分に対処できれば解決する。

地域に対しても同様のアプローチがとられる。人口減少と産業衰退の原因を「若者の絶対数の不足」という問題に特定する。その対処策として、移住・定住支援に予算が割かれる。その結果、一時的に移住者が増えることはあっても、この問題は解決しない。仕事がなければ、すぐに去ってしまう。地元の人と結婚・出産まで至っても、教育環境が整っていないければ、すぐに転居してしまう。

地域が抱える課題は、テレビを修理するようにシンプルな要素分解と個別対処では解決できない。なぜなら、地域は「生きている」からである。



かけい・ゆうすけ 1975年北海道生まれ。2011年東京大学大学院工学系研究科修士(工学博士)。08年issue+designを設立し、社会課題解決、地域活性化のためのプロジェクトに取り組む。19年から慶應大学大学院特任教授。著書に「持続可能な地域の作り方」「ソーシャルデザイン実践ガイド」ほか。

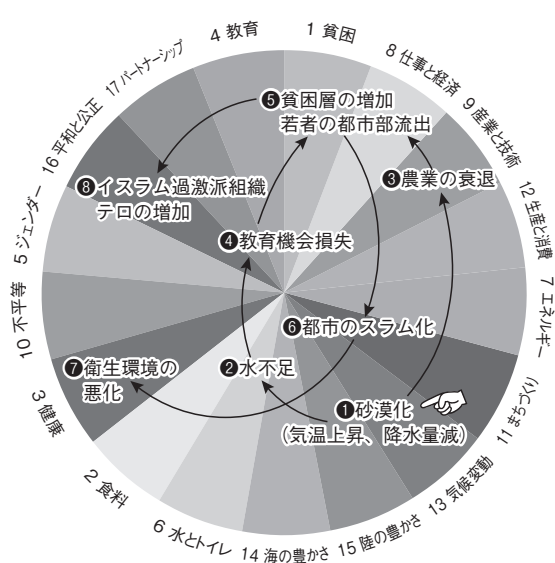
### 「人と経済の生態系」が根づいた地域

自然界の全ての種は、食うもの食われるもの、食物連鎖に組み込まれ、相互に影響しあっている。個別種に加えて、それを支配している気象、土壌、地形などを含めたものを生態系と呼ぶ。

地域を舞台にした人間の生活や経済活動も、住民・観光客などの人間、企業・行政機関などの組織、気候・地形・動植物などの自然環境の相互作用による生態系から成り立っている。森・海の自然の恵みを活かした仕事で稼ぎ、住民同士が繋がり助けあう。豊かなコミュニティのもとで次の世代が確実に育つ。持続可能な地域とは、そんな「人と経済の生態系」が存在する地域なのだ。

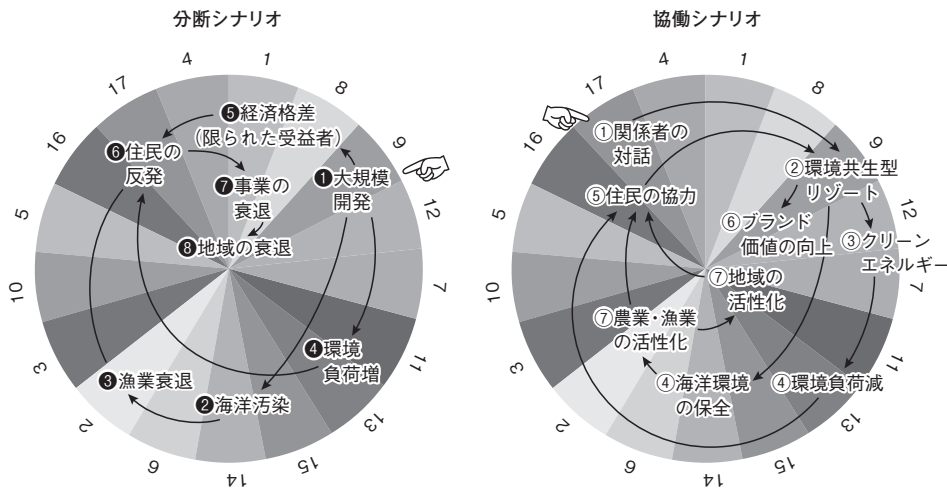
地域を持続可能に足らしめている生態系が崩壊

図1 アフリカのチャド湖を巡る負の連鎖



出所：図1、2とも寛裕介著「持続可能な地域の作り方」

図2 分断シナリオ vs 協働シナリオ



の危機に瀕している。生態系を再生するための方法論がSDGs（持続可能な開発目標）なのである。

SDGsの最も大切なコンセプトが「包括性とパートナーシップ」である。

SDGsの目標は便宜的に17に分かれているが、17のゴールはそれぞれ独立して存在しているものではない。互いに密接に関連している。

アフリカのチャド湖の事例がわかりやすい。この湖は温暖化の影響で水位が下がり、水の恩恵を受けて農業や漁業に従事していた多くの住民が、仕事を失い、大都市へと移り住んだ。大都市に貧困層が増えた結果、貧しい生活を送る多くの若者がイスラム過激派組織の勧誘を受け、テロ活動へと加わり、世界各地でテロ行為が急激する一因となった（図1）。気候変動と世界平和、2つの問題は、実は根っこではつながっているのだ。

### 住民個人の最適と地域の最適を両立する

例えば、ある地域で海洋レジャー建設の話があったとしよう。地域経済を活性化する可能性があるが、海の汚染も危惧される。この状況に対して2つのアプローチとシナリオが考えられる。

1つは分断シナリオである。事業者が、漁業関係者が、地元商店・ホテルが、それぞれが自分の利益達成を優先する行動をとるシナリオだ。このシナリオでは、互いの利害が衝突し、誰かが利益を得たら誰かが不利益を被る。事業者の利益を最

大化する開発が行われ、観光客は地域に増える。しかし、海が汚染され、漁業の衰退が進む。事業者だけが儲かり、住民からは反発の声が上がる。当然地元の協力は得られない。こうしてレジャー施設の魅力を損ない、他地域との競争に敗れる。古びた施設と汚

れた海が残り、ますます衰退が進む（図2）。個別の目標達成を優先させると、地域全体に、そして当初は勝者だった側にすら負の影響をもたらす。

もう1つが協働シナリオである。関係者が対話し、地域全体が目指す姿、各自の生活や事業の目的を共有し、ともに達成することを目指して協働する。ごみゼロ、クリーンエネルギーの小規模リゾートを開発し、地元産の食材を活用した料理を振る舞う。住民と協働した観光コンテンツを開発・運営する。環境共生型レジャーとして評価が高まり、地域に雇用も生まれる。地域全体が活性化し、みな利益を得る。理想的なシナリオだ。

17のゴールは全てつながっている。あるゴール達成のための自分の行動が他者のゴールを阻害することもあれば、逆に好影響を与えることもある。

地域に存在する問題の大半はプレイヤー間、課題間の分断にある。行政と民間などの立場の分断、若年層とシニアの世代の分断、商・農・観光など分野の分断、すなわち人と経済の生態系の崩壊により、多くの問題が負の連鎖を引き起こす「分断シナリオ」をたどっているのだ。

本連載では、様々な領域で起きている「分断」を乗り越え、対話と協働により、「人と経済の豊かな生態系」が息づいた「持続可能な地域」の実現のための提言をしていきたい。



第3月曜日発行号に掲載します。